

誤解しやすい招きと明確な招き

明確に福音を子ども伝えることはとても重要です。しかし、時々 Awana リーダは子どもがキリストを受け入れるための招きにおいて、誤解しやすいキリスト教の専門用語を使うことがあります。救いは恵みによる贈り物であることを忘れないでください。救いは単に受け取るべき物なので、救われていない子どもに次のように尋ねることは間違いです。

1. **あなたの心をキリストに献げませんか？** 聖書は決して誰かに、自分の心をキリストに献げるようには言っていません。私たちは、何かを神に献げることによって救われるのではなく、救いは受け取る必要があります。(エペソ 2 章 8～9 節を参照) エレミヤ 17 章 9 節に「人の心は何よりも陰険で、それは直らない。だれが、それを知ることができよう。」と書いてあります。またローマ 10 章 10 節には「人は心に信じて義と認められ、口で告白して救われるのです。」とも書いてあります。ある人は、このみことばは未信者がキリストを受け入れる決心へと導くと信じています。そうであっても、このみことばは「未信者が心をキリストに献げるように」と言っているわけではありません。未信者は心をキリストに献げることができません。この招きの言葉は福音を明確に伝えることのできない非聖書的なものであり、誤解を招きます。

2. **あなたの人生をキリストに明け渡しませんか？** もう一度言いますが、私たちは、何かを神に献げることによって救われるのではなく、救いは受け取るものです。(ヨハネ 1 章 12 節) 明け渡しは主に「全てをささげる」という意味を含んでいて、それはクリスチャンにのみ適用されます。ローマ 6 章と 12 章はクリスチャンに「服従」と「献身」を要求しています。クリスチャンが神のみこころに沿った生活をするために、主に従い奉仕するようにと命令しています。これらのことと、イエス・キリストを信じることを混同しないようにしてください。

3. **あなたの罪を告白して主に赦してもらいませんか？** この招きは主との関係を回復する必要があるクリスチャンにのみ適用されるものです。I ヨハネ 1 章 9 節のみことばが

この招きの根拠になっていますが、これは救いの招きではありません。未信者は神の前に自分の罪深さや滅ぼされるべきであることを認めなければなりません、罪を告白することで救われるわけではありません。(人は自分の犯してきた罪の全てを思い出すことができません!) キリストが自分の代わりに罪の罰を受けてくれたことを受け入れる時、罪が赦され聖められるのです。(ローマ 3 章 23 節参照。)

4. **キリストのところに来て、今からキリストに仕えることを約束しませんか？** キリストに仕えるという約束は信者にのみ意味があります。未信者は霊的な生活を送っていないからです(エペソ 2 章 1 節)。だから、未信者はキリストに仕える招きに応えることができません。更に、キリストのところに来て」という言葉は、キリストに受け入れられるためにはそうする必要があるという意味であり、救われるためには良い行いが必要であるという誤解を与えます(エペソ 2 章 8-9 節)。もし「キリストのところに来て」とは、キリストを救い主として受け入れるという意味で使うのであれば、この言葉を招きに用いることができるかもしれませんが、しかし、キリスト教の専門用語を含む招きは未信者に誤解を与えることがあります。主に仕えることは救われた者の当然の反応ですが、それ自体は救いとは何の関係もないのです。

5. **キリストのもとに来て祈り求めてみませんか？** 「祈り求める」や「任せる」や「ゆだねる」という言葉は救いの招きに全く適しません。それらはキリストを救い主と受け入れる事とは別の事を要求しています。キリストを信じた時に救われるとキリスト自身が約束しています(ヨハネ 3 章 18 節, 6

章 47 節)。救いを神に求めなければならないという事は聖書のどこにも書かれていません。信仰を持ってイエス・キリストの所へ行く時に、主は私たちを受け入れてくれるのです。「祈り求める」という招きは感情を強調する人たちがしばしば用います。そのような人たちは自分が救われたと感じるまで祈り続ける事を強要します。

6. **すぐにキリストにあなたの心の中に来てもらいましょう。**この様な招きを聞いた子どもはしばしば誤解して、文字通りキリストが自分の心の中に来てくれると考えます。キリストを信じるだけでなく更に別のことが必要であるという誤解を与えます。キリストが十字架の上で私たちの罪の罰を代わりに受けられたので、私たちは救われるのです(エペソ 1 章 7 節)。私たちが救い主であるイエス・キリストを信じる時に、聖霊は私たちの内に住んでくださり、私たちの体は神の宮となります。しかし、聖霊が私たちの内に住むのは、救われる方法ではなくて救いの結果です。この様な招きをする人は黙示録 3 章 20 節をその根拠にしますが、残念ながらそれは文脈を無視した考えであって、それを救いに適用することはできません。

7. **あなたは今、キリストに献身をしませんか？**この招きの言葉は、とても曖昧で最も誤解を与えるものの 1 つです。この「献身する」という言葉は、罪深い習慣をやめて、ある働きに仕えることを意味します。キリストへの献身は明らかに個人的な働きです。しかし未信者は罪過と罪との中に死んでいた者(エペソ 2 章 1 節)なので、キリストにそのような献身をすることはできません。私たちは、神へのそのような献身によって救われるわけではなく、神の救いの贈り物を受け入れることで救われるのです(ヨハネ 3 章 16-18 節)。未信者はキリストへの献身の前に、贈り物としての救いを受け取る必要があります。彼らは、キリストが救いを完成してくださったことを信じる事によってのみ、この贈り物を受け取ることができ

るのです。(ヨハネ 5 章 24 節)

8. **キリストをあなたの人生の主としませんか？**この招きは、自分の人生をキリストの支配にゆだねてこなかったクリスチャンのためのものです。未信者は霊的な人生を送っていないので、キリストを自分の救い主として最初に受け入れるときまではキリストを自分の人生の主とすることはできません。ですから、救いの招きに「人生の主」をキリストにする事は含まれるべきではないのです。キリストは十字架の贖いを通して私たちを救ってくれました。キリストは私たちの代わりに、罪の罰をその身に負ってくれました(ローマ 5 章 8 節)。キリストの死と復活によって、私たちは霊的な生活を送れるようになり、主に従い、仕えることができるのです(1 ペテロ 2 章 24 節)。救われるために、キリストを自分の人生の主にするのではありません。救われた後でみことばに従ってそうすべきです。

9. **あなたの罪を悔い改めて救いを受けませんか？**悔い改めるとは「心を入れ替える」意味で、態度が変わることで明らかになります。心からの悔い改めは、自分の罪を悲しみ、罪から神に立ち返ろうと願う心に導く聖霊の働きの結果なのです。救いの贈り物を受け入れていない未信者は、自分の罪深さ(ローマ 2 章 23 節, 6 章 23 節)と救いの必要性を認めなくてはなりません。救いにおいて悔い改める事と信じる事は表裏一体なのです(ルカ 24 章 47 節)。悔い改めるだけでは救われません。

10. **今、単純に信じてイエスに触れてもらいましょう。**この招きはその人の感情に訴えるもので、キリストを救い主と認めることの重要性を欠いたものです。この招きは、キリストを信じる代わりに救いを実感する特別な経験に目を向けさせています。聖書のどこにも「イエスに触れてもらう」時に救われると書かれていません。また、聖書は私たちがキリストを救い主として認める時に、特別な感情を求めるように命じていません。確かに、救われた時に喜びや安心や

平安を感じることは珍しいことではありません。しかし、救いの確証は私たちの感情ではなく、みことばの約束にあるのです（ヨハネ3章36節）。

11. 救いのために、あなたの全ての罪を捨て去ろうと思えますか？未信者は自分の罪を捨て去ることはできません。また聖書も、救いを贈り物として受け取る前に、罪を捨て去らなくてはならないとは教えていません。代わりに、聖書は私たちのために死んでくださったキリストの福音を信じるよう

にと強く勧めています（ローマ5章8節）。私たちがキリストを信じる時、失われて希望のなかった私たちを神は受け入れてくださるのです。一方で、キリストを受け入れたなら、私たちは聖霊の力によって罪を捨て去り、キリストにある生き方を学ぶべきです（ヨハネ14章21節、Iヨハネ5章2-3節）。この招きは、救いの結果（神を敬う行い）と救いの方法（キリストを信じること）とを取り違えているのです。

次の招きは明確な表現の例です：

12. 主イエスを受け入れて、イエスを自分の救い主として信じませんか？この招きのことばは聖書的に正しいものです。イエス・キリストを自分の救い主として受け入れる事は、キリストが十字架の上で私のためになしてくださった事を信じることです。キリストを信じる事は、キリストが私のために死んでくださった事を個人的に受け入れることです。未信者は私を罪の罰から救うためにキリストが死んでくださったと個人的に信じるべきです。... この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、...（ヨハネ1章12節）のみことばは全ての人に開かれた招きのことばなのです。これは福音の中心です！
13. キリストはあなたの罪のために死にました。キリストを個人的に信じてください。そうすればあなたは救われます。この招きは正しい招きです。キリストは私たちの罪のために死に、その死から肉体を持って復活した事によって罪に対する勝利を示されました（ローマ4章24-25節）。聖書において信じるという言葉は何かを完全に信頼することを意味しています。私たちが個人的に福音のメッセージを信頼した時に、天国での永遠のいのちが保証されます。イエスは私たちの救いを完成する事を保証してくださる生けるお方です（ピリピ1章6節）。